

## 「(プログラム名称を記入) 参加報告書」

京都大学文学研究科博士後期課程3年 (氏名) 五十嵐涼介

以下では、今回の派遣によって得られたプログラム内容、学習成果、海外での経験、進路への影響について簡単に報告する。

**(1) プログラム内容**

今回の派遣は、4月29日および30日に開催された4大学合同での『2017 Quadrangle Graduate Conference on Asian Philosophy』への参加および発表が目的であった。この国際会議は、京都大学・シンガポール国立大学・台湾政治大学が合同で毎年開催していたものであるが、今回から韓国ソウル国立大学が加わり、4大学合同での開催となった。今回の会場は台湾政治大学であり、アジア哲学について様々な観点から成された研究の発表が行なわれた。発表者は主に大学院生であり、それぞれの発表内容について活発な議論が行なわれた。

**(2) 学習成果**

申請者は上述した会議において、仏教思想における論理学に関する発表を行なった。これはシンガポール国立大学の学生と進めている共同研究であるが、今回の会議では仏教および論理学の専門家が数多く参加しており、発表内容について多くの助言・質問をいただくことができた。また同時に、同じ題材を扱っている学生と意見交換をすることができ、今後とも継続した議論を行なうことを約束した。以上のことを通じて現在の研究を大きく進展させることができ、実りのある滞在となった。また、今回の発表では英語での発表の経験を積むことができた。

**(3) 海外での経験**

今回の滞在では、台湾およびシンガポール・韓国の学生と夕食を共にするなどのイベントを通じて交流を深めた。特に、それぞれの国において大学や研究者が立たされている状況について意見交換できた。また、二日目の会議後、現地のレストランを訪問し、さらに夜市の見学を行なった。これらのイベントによって台湾の文化をより深く体験することができた。

**(4) 進路への影響**

今回の派遣では、前述した通り、現在行なっている研究を大きく前進させることができた。今後はこれをさらに発展させ、当該分野の海外トップジャーナルへの投稿を目指していく。また、今回の滞在によってこれまで以上に多くの研究者と知り合うことができた。